

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新型コロナウイルス感染症に係る対応として、何よりも生徒の安心・安全を確保し、生徒の学びを保障する教育活動に努めます。
 生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な人々と協働することで、子どもたち一人ひとりが Society5.0 を生き抜くために、展望を持って自らの人生を切り拓き、「自分で未来に近づく」人材を育成します。また将来の「地元」を担う人材育成の基盤としての役割を果たします。
 総合学科の特色を生かし、様々な学習や体験を通して、基礎学力に加えてこれからの社会で生き抜くために次の「白稜シッ」を育みます。

1. どんな時も投げ出さない、考え抜く強さを持ちます。
2. ゴールに向かって、多くの人と協働します。
3. 変化を恐れず、一歩前へ踏み出します。
4. 創りだすことを楽しみます。

2 中期的目標

- 1 考え抜く力を育む（白稜シッ1）
 - ・生きて働く「知識・技能」の習得を図り、生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む。
 - ・間違いを恐れず、生徒が自らの課題を見つけたら、考えたり学びを深めたりできるように主体的・対話的で深い学びを推進する。
 - ・学校設定科目「リーディングスキル基礎」「同 応用」を通して、すべての学習の基礎となる「読んでわかる力・聞いてわかる力・見てわかる力」を育む。
 - ・研究授業や授業見学、授業改善に向けた研修等を通して教員の授業力向上を図る。
 - 2 人と協働する力を育む（白稜シッ2）
 - ・社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力を育む取組みを進める。
 - ・ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取組みにより、生徒の自尊感情を育む。
 - ・「産業社会と人間」やLHR、「総合的な探究の時間」での学びや体験を通して「他者の立場にたって考える」など社会人としての基礎力を身につけさせる。
 - 3 踏み出す力を育む（白稜シッ3）
 - ・「産業社会と人間」の授業をスタートに、科目選択や3年間のキャリア教育、体系的な進路指導を通じて、生徒が自ら目標を選択、決定し、その達成に向けて行動する力を育む。結果として進路決定率を保持する。
 - ・外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について積極的に考える意識を育てる。
 - ・インターンシップや職場見学を充実させ生徒の社会への視野を広げることで、生徒の経験やSES（社会経済的地位）に関わらない進路実現を促進する。
 - ・学校設定科目などを通じ、多様性の受容を進め、未知の状況に対しても恐れず対応できる思考力、判断力を育てる。
 - 4 創造する力を育む（白稜シッ4）
 - ・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」などを基幹とし、すべての教科で生徒が自ら考え発表する機会を増やし、表現力を育てる。
 - ・身につけた知識や情報を生かして、企画・制作・発表などを行い、学びに向かう力や、新しい考えや価値を生み出す力を育む。
 - ・清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。
 - 5 4つの力を育む基盤となる、安心・安全な学校づくり
 - ・生徒の実態把握に努め、関係者間で情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
 - ・外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。「わたしカフェ」の取組みを継続させ、さらなる充実を図る。
 - ・SG、SSW等の専門人材、福祉等の関係機関との連携を深め、「社会とのかかわり」という視点も持ちつつ、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。
 - 6 学校の運営体制
 - ・カリキュラムマネジメントに基づき、総合学科「大正白稜高校」の学びのスタイルを確立させる。
 - ・「大阪府教員等研修計画」を活用し、研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続する。
 - ・本校の特色や状況に応じた長時間勤務の一層の縮減に向けた取組みや、時間や健康の管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。
 - ・より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。
- * 令和5年度目標
- ・進路決定率を全国平均以上（H30 泉尾高校 94% R1 泉尾高校 90.5% R2 94%）
 - ・学校教育自己診断における「白稜シッ」の肯定率平均を 75%以上（「考え抜く」H30 52.9% R1 63.1% R2 63.6%、「協働」H30 60.4% R1 72.7% R2 63.8%、「チャレンジ」H30 56.8% R1 69.3% R2 80.1%、「創りだす」H30 54.2% R1 57.2% R2 62.3%）
 - ・就職1次内定率 75%以上で、就職内定率 100%を維持（H30 泉尾高校 1次内定率 94% 内定率 100% R1 泉尾高校 1次内定率 71% 内定率 100% R2 1次内定率 72.5%、内定率 100%）
 - ・関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学の合格者3名（H30 泉尾高校0 R1 泉尾高校0 R2 0）
 - ・京都産業大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学、摂南大学、神戸学院大学、追手門大学、桃山学院大学等への進学者10名（H30 泉尾高校0 R1 泉尾高校0 R2 6）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	進捗状況
1 考え抜く力を育む	(1) 学習活動の充実 (2) わかる授業、充実した授業づくり	(1) ア. グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせる主体的、対話的で深い学びの推進。 イ. 朝活動と連携しながら、「リーディングスキル基礎」の授業を通して、読解力を育む。 (2) ア. 授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ. 校内や近隣の小中学校を含む他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ. 授業見学週間を年2回以上設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。	(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率75%以上 [80.7%] (2) ア. 授業アンケート「興味関心が持てた」の肯定率85%以上 [87%] ウ. 見学週間の回数を2回以上 1 生徒向け学校教育自己診断で、「授業や行事を通して、今までよりも粘り強く考えるようになった」(白稜シップ1)の肯定率を60%以上とする [63.6%]	
2 人と協働する力を育む	社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、特別活動などを通じて、他者と協働する活動を充実させ、その力を育む。 イ. より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。 ウ. 文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化、校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。	ア. 生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を70%以上 [74.1%] イ. 清掃活動に参加する生徒の率を60%以上 [31%] 2 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事では、目標に向かって、人と協力することがたくさんある」(白稜シップ2)の肯定率を65%以上とする [63.8%]	
3 踏み出す力を育む	学びを人生や社会に生かそうとするキャリア教育の充実	ア. 様々な学習や、2、3年次の科目選択、それに向けたガイダンスを通して、自らの目標を設定し、その実現に向けた取組みを進める イ. 職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。また資格取得にも積極的に取り組む。 ウ. 外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みを充実させる。具体的には上記のような進路行事の回数を各学年3回以上とする。	アイ. 生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を75%以上 [82%] ウ. 年間の各学年進路行事3回以上 3 生徒向け学校教育自己診断で「先生は、新しいことや少し難しいこと、苦手なことなどのチャレンジすることを応援してくれる」(白稜シップ3)の肯定率を65%以上とする [80.1%]	
4 創造する力を育む	(1) 学習活動における発表機会の充実	(1) ア. 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業における生徒の発表機会等を充実させる。 イ. 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」などで、ディベートや発表会を行い、新しい考えや価値を生み出す力を育む。 ウ. 新たに土曜日に実施予定の「発表大会」(仮称)の場で、地域の人や中学生、保護者などに対して学んできたことを発表し、学びを人生や社会に生かそうとする力を身につけるとともに、未知の状況の中での表現力の育成を図る。	(1) アイウ. 生徒向け学校教育自己診断の「授業では、グループ活動や実験・実習、発表など様々な取り組みの工夫がある」の肯定率75%以上 [80.7%]	

	(2) 地域との交流	(2) ア. 地域イベントやインターンシップ、進路行事、授業など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。	(2) ア. 年間5回以上の交流機会を設けることができたか。 4 生徒向け学校教育自己診断で「授業や行事を通して、何かを創ったり、自分の考えを人に伝えることが、以前より楽しく感じるようになった」(白稜シッ プ4)の肯定率 60%以上をめざす [62.3%]	
5 安心・安全な学校づくり	生徒理解の促進と相談体制の確立	ア. 新型コロナウイルス感染症に関わる長期的な対応を視野に入れ、生徒の安心・安全の確保および学びの保障に努める。 イ. 生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。 ウ. 生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。 エ. 要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。	ア. 相談体制の充実及びオンライン授業などのさらなる整備に努める。 イ. 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 65%以上 [49.9%] ウ. 中学校訪問、家庭訪問回数、各ケースごとに1回以上 エ. 生徒支援委員会を充実させる。	
6 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	ア. 「チーム学校」にとどまらず、さらに自治体、高等教育機関、産業界、地域 NPO 等との協働による「コンソーシアム」の構築を視野に入れ、進学・就職に係るインターンシップ等も含む新たなカリキュラムをマネジメントする。 イ. 計画的な教職員研修の実施 ウ. 学年が連携した学校運営 エ. 「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動のガイドラインに沿った取組みを進める。 オ. 教育環境を改善するための学校施設、設備の充実 カ. 学校説明会、中学校訪問等による情報発信、広報活動を充実させる。 キ. 特にホームページの更新を定期的に行い、行事予定や進路実績(1期生)など、常に最新の情報の発信に努める。 ク. 学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれにより PTA 活動の一層の活性化を図る。	ア. 新課程のカリキュラムを地域を分厚く支える人材育成を視野に入れて構築する。具体的にはインターンシップ関係の取組みを年1回以上行う。 イ. 人権や生徒の安全に関係する研修を年間5回以上実施できたか ウ. 教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 55%以上 [57.1%] エ. 学校閉庁日、定時退庁日の設定。部活動ガイドラインの徹底。時間外勤務月一人当たり平均を45時間以内とする [23.9時間] オ. 1年間に3件以上改善できたか カ. 学校説明会6回以上 [5回] 中学校訪問2回 [2回] キ. 定期的に更新できたか ク. 体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数400名以上 [205名]	